

# ドリルでもっと 算数の力を!

加藤 明先生に聞く

## これをおさえればOK! 算数指導 3つのツボ

### 🔑 ツボ1

習得と活用のバランスの  
とれた学力をつける

### 🔑 ツボ2

学習の成果を確かめながら  
学習を展開する

### 🔑 ツボ3

学習習慣を確立する

ベネッセの くりかえし 計算ドリル



ベネッセドリルの  
キャラクター  
サルッキー

# 習得と活用の バランスのとれた 学力を



「日々の指導で何に気をつければいいのかろう？」  
「計算ドリルを使用してもっと子どもたちの計算の  
力を向上させるには？」  
多くの先生方の疑問を、加藤先生にお聞きしました。

## 算数指導3つのツボ

- ツボ1. 習得と活用のバランスのとれた学力をつける
- ツボ2. 学習の成果を確かめながら学習を展開する
- ツボ3. 学習習慣を確立する

### ツボ1 習得と活用のバランスのとれた学力をつける

Q

授業時数、内容ともに増え、習得だけでも大変で、活用まではなかなか難しい…。



A

習得か活用かではなく、習得と活用を行き来して  
力をつけていくことが求められます。

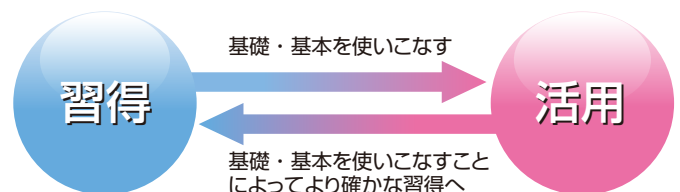
新学習指導要領では、**基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、それを基盤にした活用の力**が求められています。「習得か、活用か」の二択ではありません。大事なのは、**習得と活用のバランスのとれた学力**です。

活用とは、**基礎・基本をどう使いこなせるか**、ということです。基礎・基本の「**どうしてそうなるのか**」という元になる**考え方を大事**しておかないと、活用にはつながりません。そして、活用することで原理への理解が深まり、より確かな**基礎的・基本的な知識・技能の習得**につながります。習得は、活用することで、**より確かな習得**になるのです。今までに勉強したことを使って、子どもが背伸びをして考える。この「**習得と活用の行き来**」によって、**習得と活用のバランスのとれた学力を養成**することができるのです。

日常的に取り組む計算ドリルも、これまでは、教科書で足りない計算問題を補充するだけのものでしたが、これからは、**教科書と相補い合うもの**が求められます。

教科書で学んだ計算原理を確かめて、練習問題に取り組む。その計算原理を元に活用の問題に取り組む。ドリルでのこのような取り組みで、**効果的に力をつける**ことができます。

#### 習得と活用のバランスのとれた学力



Q

習得に効果的なドリルの取り組み方は？



**A** 量がないと質が伴わないので、くりかえしトレーニングすることです。ノートをチェックして次の指導に活かすと、より効果的です。

子どもの学習は、量がないと質が伴いません。ですから、ドリルをノートにくりかえし解くことが、効果的なトレーニングになります。

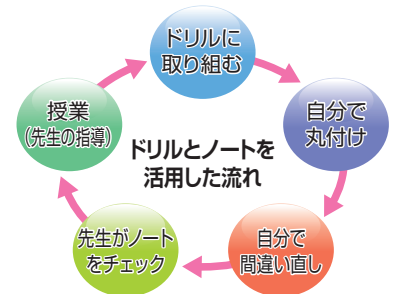
学校で1回やったことを、あとでもう1回やって、1回で分からなかったら、2回、3回やるうちにだんだん分かってきます。

直接計算ドリルに書き込むと、1回で終わってしまいますし、間違いを直すのも難しくなります。

しかし、すべての問題をくりかえし解く余裕がないならば、例えば、1回やって苦手だった問題をチェックしておいて、2回目で時間がないときは、その問題から取り組むなど、自分なりの工夫を子どもにさせるのもいいでしょう。

また、ノートに解くことで、子ども自身も間違いについての意識が高まり、先生の検印は子どもにとって励みになります。先生にとっては子どものつまずきの実態を確かめて、次の指導に活かすことができます。

ノートをチェックする時間がなかなかとれないかもしれませんが、一番効果的な方法といえるでしょう。単元を絞ったり、時期を絞ってチェックするなど、チェックの機会を少しでも作りたいものです。



Q

活用に効果的なドリルの取り組み方は？



**A** 活用の問題にも取り組むこと。活用の問題を授業で取り上げるのもいいでしょう。

文部科学省「全国学力・学習状況調査」(いわゆる「全国学力テスト」)のB問題は、文章量が多く、読み取るのが大変で、国語的な読解力が必要になります。

ベネッセのドリルでは、活用の問題(1・2年「算数の力をつけよう!」、3~6年「算数の力UPレッスン」)も取り上げており、定期的に活用の問題に取り組むことができます。

この活用の問題に取り組むこと自体が、粘り強い思考のトレーニングとなり、思考力を高めます。ドリルの巻末にあるので、くりかえし取り組むこともできます。

子ども一人で取り組むのが難しいようであれば、まずは授業で取り上げ、続きは宿題で、という方法もいいでしょう。

ツボ2

## 学習の成果を確かめながら学習を展開する

Q

効果的な評価のやり方は？



**A** 指導と評価を一体化させることです。新しい単元に入る前には、レディネスの確かめを行い、不足している場合はその養成を行いましょう。

そもそも、評価とは、学期末に成績をつけることだけではありません。子どもが分かっているか、という学習の成果を確かめることです。指導したら評価をして、ダメだったら次の指導に活かしていく…と、指導と評価を一体化してとらえることが必要です。

また、新しい単元に入る前に、その単元を学習するにあたってどうしてもついでにないといけない知識・技能(これを「レディネス」といいます。)の確かめをすることが大事です。

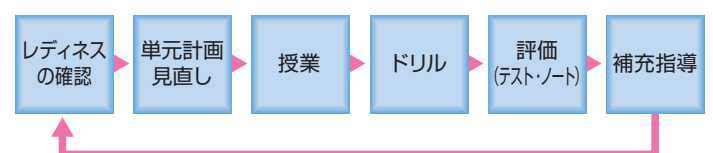
レディネスの確かめだけでなく、その知識・技能が不足している場合、養成も必要です。算数は系統的な教科なので、レディネスは習得の

前提条件となるからです。

レディネスの養成のために、単元計画の見直しが必要な場合もあるでしょう。見直した単元計画に従って授業を行い、授業中や宿題等でドリルに取り組んで基礎・基本を定着させ、テストやノートで評価を行い、評価の結果から補充指導(教え直し)…という指導のサイクルが大切です。



単元指導の流れ



# ツボ3 学習習慣を確立する



加藤 明先生

かとう あきら◎専門は教育方法学。小学校教師として教壇に立ったあと、ノートルダム清心女子大助教授、京都ノートルダム女子大教授・心理学部長を経て、2009年10月から現職。中央教育審議会専門委員、文部科学省検定教科書・小学校「算数科」「生活科」編集委員等も務める。主な著書は、『プロ教師のコンピテンシー—次世代型評価と活用—』（明治図書出版）など。趣味は食べること。好きな食べ物はステーキ（焼き方はミディアム）。

Q 学習習慣を確立するために、家庭との連携の良いとり方は？



A まず、保護者会や学級通信等で「一緒にやりましょう」と呼びかけましょう。

新学習指導要領では、総則に「家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。」と定められています。

本来、学習習慣とは、学習した後に、子どもが自分で、ここではできてここではできていないから、できていないところを学習するという、くりかえす自己学習の力です。

ただ、いきなりこのレベルは難しいので、まずは、家に帰ったら寝るまでの間に、必ずかばんから全部出して、連絡帳を確

認して、宿題をやって、明日の時間割をあわせて、という学校生活に関わる習慣づくりが必要です。

特に低学年の保護者とは、連携を強めて一緒にやっていくことを考えましょう。学校と家庭が二人三脚で取り組めると効果的です。保護者会や学級通信等で、学習習慣と学力の相関が高いデータを示してもいいでしょう。ときどき、学校の様子が一番分かる子どものノートやドリルを保護者に見てもらい、「見ました。」とサインをもらう宿題を出すのもいいですね。

## 先生方へのメッセージ



学校は、子どもがやってきて賢くなるどころでなくてはなりません。学校にやってきたから、分かることが増えて、できることが増えて、考える力がつきます。そして自分が賢くなったことを先生や友達に認められて、自信をつけにくるどころでなくてはなりません。そのために、先生方ご自身が指導力をみがくことや、よく考えられた教材を用いることは、効果的な方法です。頑張れ、先生！

# ベネッセのくりかえし計算ドリル

お使いいただいた先生方から「計算の力を高めることができた」というお声をいただいています！

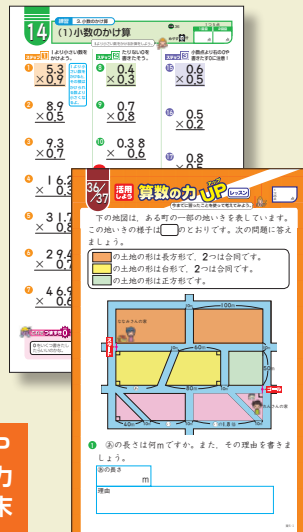


### ●本誌

◎キャラクターが楽しく、学習意欲が高まります。問題量も適切でした。（愛知県 名古屋市）

◎ポイントを押さえた問題で構成されていたので、授業後やくりかえしの復習に役立ちました。「答え」のページも使いやすかったです。（群馬県 伊勢崎市）

◎応用問題が多くあり、よかったです。（愛知県 江南市）



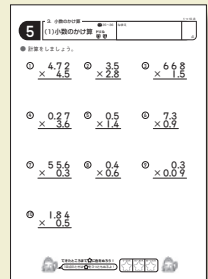
活用の力を育む「算数の力UPレッスン」（1・2年は「算数の力をつけよう！」）を、各学期巻末に掲載しています。

### ●切り取り式テスト

◎学習の定着を確認するために小テストとして利用しました。（埼玉県 志木市）

◎テスト前に使用することで、児童の理解度が確認できました。（熊本県 上益城郡）

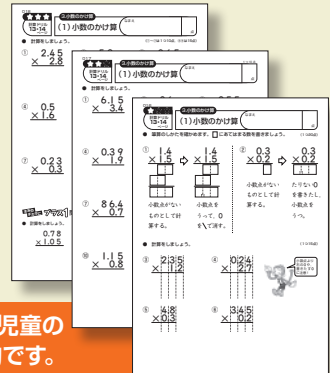
◎児童が自分で確かめるのに、範囲が分かり、使いやすかったです。問題数も適切でした。（鳥取県 米子市）



### ●ダウンロードプリントサービス

◎種類が多く、毎日利用できます。レベルの簡単なものから難しいものまでそろっており、レベルに合ったものを用意できるのでうれしいです。（富山県 富山市）

◎コピーして何度もやらせることができるのがよいです。（宮城県 延岡市）



3～6年は習熟度別なので、児童のレディネスの養成にも効果的です。

他にも、学期末のまとめプリント、ノート指導プリント、教師用計画表などのさまざまなプリントをご用意しております。

\*掲載の誌面はすべて制作中のものです。内容、デザイン、仕様などは変更する場合があります。

ご注文・お問い合わせは ▶ 株式会社ベネッセコーポレーション

電話 通話料無料 0120-929-667

くわしくは ベネッセ ヤルッキー で検索してください。

ホームページを ▶ ※各種検索サイトでカタカナで入力してください。ご覧ください。

<http://www.teacher.ne.jp/d>